

バイオテロ対策のための備蓄されている細胞培養痘そうワクチンの備蓄等、バイオテロ病原体への検査対応、
公衆衛生との関連のあり方に関する研究
分担報告書

分担研究課題名 バイオテロ対応ホームページのアップデートとバイオテロ対策支援方法の開発

所 属 東京大学医科学研究所附属病院
研究分担者 安達英輔

研究要旨: COVID-19 に関する簡単な項目の追加と、メリオイドーシス(鼻疽菌・類鼻疽菌)のアロマスプレーを介した米国の事例などによる注意喚起を追加した。ホームページ更新のアクセス数については昨年度より減少している月もあったが、一昨年度、COVID-19 の影響で大きくアクセス数を伸ばしており、その反動による減少と考えている。全体としては COVID-19 流行以前からは増加している。

A. 研究目的

昨今の国際情勢を鑑みるとテロリズムへの懸念は弱まることはなく、生物製剤を用いたバイオテロに対しても十分な対応が必要である。特に2021年の東京オリンピック・パラリンピックを控えた日本では対策強化が不可欠であった。本研究では、バイオテロ対応ホームページを通じて、使用される可能性のある病原体の特徴や発生時の応急対応などを広く情報提供し、有事の際の混乱を最小限に留めることを目的とする。さらに、ホームページ以外の方法でも効果的な支援方法を検討する。

B. 研究方法

バイオテロホームページの作成と最新の情報への更新を行う。

【倫理面への配慮】

公表された情報のみを研究材料とするため、倫理面への特別な配慮は必要ない。

C. 研究結果

COVID-19 に関する簡単な項目の追加と、メリオイドーシス(鼻疽菌・類鼻疽菌)のアロマスプレーを介した米国の事例などによる注意喚起を追加した。

D. 考察

ホームページ更新のアクセス数については昨年度より減少している月もあった。一昨年度、COVID-19 の影響で大きくアクセス数を伸ばしており、その反動による減少と考えている。COVID-19 流行以前からは増加している。

E. 結論

ホームページアクセス数は増加傾向にあり、情報提供源として一定の役割を果たしていることが確認できた。バイオテロへの認識向上に効果的である可能性が示唆された。COVID-19 の流行から SARS など過

去のコロナウイルス感染症への情報提供も求められていることなどが伺われた。2021年は東京オリンピックが開催されるなどバイオテロ対策にとって重要なイベントが多く、ホームページのアクセス数からも重要性が認識された。バイオテロに使用される病原体や各疾患の特徴などを閲覧できるホームページの継続的な改訂は今後とも継続していく必要がある。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Adachi E, Nagai, E Saito M, Isobe M, Konuma T, Koga M, Tsutsumi T, Nannya Y, Yotsuyanagi H, Anti-spike protein antibody titer at the time of breakthrough infection of SARS-CoV-2 omicron. 2022 J Infect Chemother. S1341-321X(22)00100-32022, 2022
- 2) Adachi E, Saito M, Nagai H, Ikeuchi K, Tsutsumi T, Yotsuyanagi H, Transient depletion of T cells during COVID-19 and seasonal influenza in people living with HIV. J Med Virol 2022 May;94(5):1789-1791

2. 学会発表

- 1) 安達英輔、池内和彦、齊藤誠、古賀道子、堤武也、四柳宏 COVID-19 患者の CD4+T 細胞及び CD8+T 細胞数の変化 第 71 回日本感染症学会東日本地方学術集会, 東京(2021.10)
- 2) 安達英輔、池内和彦、齊藤誠、古賀道子、堤武也、四柳宏 季節性インフルエンザ感染症、及び COVID-19 罹患に伴う T 細胞サブセットの変化 第 35 回日本エイズ学会学術集会, 東京(2021.11)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし